

公益社団法人計測自動制御学会 2017年度（平成29年度）事業計画書

公益社団法人第7期 通算第56期
2017年（平成29年）1月1日～12月31日

目 次

I. 事業計画	
1. はじめに	1
2. SICE 中期事業計画（2015～2019年）	1
3. 各組織中期事業計画：単年度計画	1
4. 2017年度事業計画の実施と見直し.....	1
5. 2017年度事業計画の特記事項.....	1
II. 2017年度事業計画付属明細書	
1. SICE 中期事業計画（2015～2019年）	3
2. 単年度計画（2017年）	5

SICE®

2017年（平成29年）2月

公益社団法人計測自動制御学会

東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階

電話 (03) 3292-0314

FAX (03) 3292-3145

URL <http://www.sice.jp/>

I. 事業計画の概要

1. はじめに

SICE では2014年より、2013年1月に制定（2014年に改定）された「SICE 中期事業計画（5か年計画）」を各委員会・部門・支部ごとにブレイクダウンして、3か年計画、単年度計画に落とし込む形で事業計画を策定してきました。この仕組みは、担当する理事・部門長・支部長が交代しても、中長期事業をもれなく引き継いでいくことができる良い仕組みですが、ともすると運用が形骸化してしまい同じ計画が繰り返し先送りされるという課題があることが、2016年度の理事会で議論されました。そこで2017年度は、「SICE 中期事業計画」をより実効性のある「SICE ミッションと事業計画」として改定し、また、この新しい計画に従って、次年度の単年度事業計画を策定するプロセスに見直していくことを計画しています。

なお2016年度中に策定する必要がある2017年度の各委員会・部門・支部の個別計画については、現行の「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」をよりどころとして、単年度計画として落とし込みました。前述の新しい「SICE ミッションと事業計画」とそれに基づく単年度事業計画策定プロセスの見直しの結果により、必要に応じて2017年度中に単年度計画の追加削除を行うこととしました。

2. SICE 中期事業計画（2015～2019年）

2014年度に策定された「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」は、2013年1月に制定された「SICE 2013-2017年度5か年中期事業計画^{注1}」をもとに、PDCAを回しながら実施状況を見直して策定し直した、第二次5か年事業計画です。「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」の骨子は、これまでのビジョンとそれに基づく「4つの柱」を踏襲しています。

2017年度単年度計画のよりどころになっている「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」をII-1に示します。

注1：SICE 創立50周年を期に2012年度に立案・策定を進め、2013年1月に制定されたSICE初の中期事業計画です。

3. 各組織中期事業計画：単年度計画

「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」をよりどころに、各委員会・部門・支部ごとに「単年度計画（2017年）」を策定しました。「単年度計画（2017年）」について、II-2に示します。

なお、2016年4月の理事会において、会員サービス委員会と事業推進連携委員会を、2017年度より事業会員サービス委員会として統合することが決議されています。

4. 2017年度事業計画の実施と見直し

2017年度の事業は、前述の「単年度計画（2017年）」に従って計画的に実施されます。しかしながら、事業を遂行していくと、往々にして計画通り事業が進まない事態が発生します。そこで、事業の遂行と合わせて、今年度事業計画、実施した内容、明らかになった問題点、問題解決のための具体策を「活動報告」にまとめ、PDCAのサイクルを回していきます。

5. 2017年度事業計画の特記事項

2017年度事業計画の特記事項を、「SICE 中期事業計画（2015～2019年）」に定められた「4つの柱」ごとに示します。

プレゼンス：

SICEの一般社会及び産業界への発信力強化のために、必要な情報の見える化、キーワード検索によるSICEへのアクセス数増大対策、スマートフォンへの対応、SNSへの参加、ビデオクリップコンテンツ企画などを含めたSICEホームページの刷新を検討します。

Society5.0でのSICEの役割明示とSICE関連技術のプロモーションのために、Society5.0に関するOSやワークショップを開催することによる、メーカー企業・ユーザー企業のみならず銀行や商社等の異業種を含む社会への情報発信を進めます。

サービス：

SICE2017（金沢）での企業向けイベント（日本語WS併設など）、国際化推進イベントなどを企画し参加者数増大を目指します。

国際性：

英文論文集の国際的評価基準（Citation Index 等）獲得へ向けた具体的方法とスケジュールの策定を進めます。

Annual Conference の海外（アジア圏）開催計画の策定を進めます。

日本誘致が決まった IMEKO2021、IFAC2023 の開催支援体制の検討を進めます。

組織運営：

事業計画を遂行可能とするための財務改善 TF を継続します。

Ⅱ. 2017 年度事業計画付属明細書

1. SICE 中期事業計画 (2015-2019 年)

2014 年度に策定された「SICE 中期事業計画 (2015～2019 年)」を 4 ページに示します。

ビジョン

計測・制御・システムの中核学会として、計測・制御分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、①諸分野の産官学のハブとなり、発信・連携することで、②関連分野・産官学の抽出・解決に貢献する。

ブレゼンス(社会に向けて):

計測・制御・システムに関する学術及び技術の進歩発達をほかり、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。そのために、国内外の若手人材を育成し国際的に卓越した成果を生産/提供し続ける場を構築するとともに、学融合・分野横断を推進し新たな価値を創造する。また、社会へのサービスを拡充するとともに、社会的な重要課題の抽出や解決に資する取り組みを充実する。

サービスピ(会員に向けて):

会員の多様なニーズに迅速かつ的確に応え、会員であることへの誇りや価値を実感できるようなサービスを提供する。計測・制御・システムに関わる会員の分野横断的な活躍を支えるために、専門性深化と知的創造、情報発信と交換、学術体系化・産官学・異業種間連携推進などを実現できる、快適な場/効果的な手段を提供する。

国際性(世界に向けて):

国際的な発信力、提案力を強化する。特に、Annual Conferenceや英文論文誌を中心にアジアにおける計測・制御・システム分野の中核学会として当該分野の研究者・技術者の議論の場を提供するとともに、教育・人材育成に貢献する。標準化の分野で国際的なイニシアチブを目指し、国際標準の提案を行う。主要国際会議におけるSICEの関与の比率を高め、当該分野の発展に貢献する。

19年末の あるべき姿

"SICE"が全理工学系学会の中で、きわだった学際性と、専門性に裏打ちされた課題抽出・解決力を持つ学会として知られている。

"SICE"の名が、アジア地域で、計測・制御・システムの学際的でトップアラウンドになっている。

- ① 国内外の人材を育成する。
- ② 国内外に、卓越した成果を発表する場を提供する。
- ③ 学融合・分野横断を推進し、新しい価値を創造する。
- ④ 社会へのサービスを拡充するとともに、社会的な重要課題の抽出や解決に努める。
- ⑤ 国家プロジェクト等に参加し、国・社会に対し貢献する。
- ⑥ 企業エンジニア向け教育、企業向けコンサル、イベントの提供等を通じて産業界に対し貢献する。
- ⑦ 大学(学部授業)向け企業教育の提供等を通じて教育界に対し貢献する。
- ⑧ 当学会が計測・制御・システムの中核をなすために効果的な広報活動を行う。

- ① 計測・制御・システムに関わる最先端の情報を提供する。
- ② 計測・制御・システムに関わる成果発表の場を提供する。
- ③ 計測・制御・システムに関わる会員の交流の場を提供する。
- ④ 計測・制御・システムに関わる会員・賛助会員の日常生活の支援を行う。
- ⑤ 会員の社会的地位・価値の向上に資する。
- ⑥ 賛助会員・会員に対して国家プロジェクトへの参加の機会を提供する。
- ⑦ 企業委員・賛助会員に対して、企業エンジニア向け教育、企業向けコンサル、イベント等を提供する。
- ⑧ 大学(教員)会員に対して、大学(学部授業)向け企業教育の提供等を提供する。

中期目標の ポイント

- ① 日本学術会議・横断連合・日本工学会・JEMIMA等、現在連携している国内外の産・学・協会との連携を維持・継続し、SICEのブレゼンスを維持・向上する。
- SICEが新たな価値を創造するために有効な、新たな産・学・協会との連携を、国内外を問わずに継続的・戦略的に構築する。
- AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大し、国内外に卓越した成果を発表する場を提供し続ける。(ブレゼンス・サービスピ共通)
- 技術者教育・資格認定・キャリア形成の連鎖を一気通貫で提供する教育システム・教科書等の構築を戦略的に継続し、会員への提供価値を維持・向上する。

具体策 定常事業 (基幹事業)

- ① 次世代のSICEの活動の柱になるような社会的な重要課題の抽出や社会へのサービスを拡充する観点から、国家プロジェクト等を主導することにより学融合を促進し、新しい価値を創造する。
- 海外(特にアジア)の人材育成に貢献する具体策を検討する。(ブレゼンス・国際性共通)
- 計測・制御・システム分野の普及と、SICEの活動の広報を行う戦略を策定し、実施する。
- SICE会員の持つ知見を活用した、学→産、産→学の教育・コンサル・イベント等を企画し、実行に移す。(ブレゼンス・サービスピ共通)

国際的な発信力、提案力を強化する。特に、Annual Conferenceや英文論文誌を中心にアジアにおける計測・制御・システム分野の中核学会として当該分野の研究者・技術者の議論の場を提供するとともに、教育・人材育成に貢献する。標準化の分野で国際的なイニシアチブを目指し、国際標準の提案を行う。主要国際会議におけるSICEの関与の比率を高め、当該分野の発展に貢献する。

"SICE"の名が、アジア地域で、計測・制御・システムの学際的でトップアラウンドになっている。

- ① 学会・会員の国際的な地位および知名度の向上を行う。
- ② 国際会員を増加させる。
- ③ ACや英文論文誌を通じて国際的な議論の場を提供する。
- ④ アジア地域の人材育成に貢献する。
- ⑤ 国際標準の提案などを通じ、標準化の分野で国際的なイニシアチブをとることを目指す。
- ⑥ 全世界の関連学協会・団体・研究者との国際交流を強化し、主要国際会議におけるSICEの関与の比率を高め、当該分野の発展に貢献する。

- ① 会員数を7000人台に回復させる。
- ② 組織構造・業務プロセスを効率化し、迅速な意思決定を実現する。
- ③ 計画的な予算策定と予算管理の徹底を行い、会員サービスの向上の充実を中心に据えた、発展的で健全な財務体質を実現する。
- ④ より厳正な業務プロセスを實現し、学会内業務の標準化と責任分掌の明確化を図る。
- ⑤ IT化の徹底推進を行い、学会内外の業務や各種手続きを効率化する。
- ⑥ 将来の国際化を鑑みて、業務プロセスへの英文導入を試行する。
- ⑦ 事務局職員の資質向上のために職員教育を充実させる。
- ⑧ 産業界との連携拡大をはじめとする学会内外での縦横断的な組織連携の一層の強化を行う。
- ⑨ 学会を評価するベンチマーク指標として、会員満足度指標、国際会員数、国際会議参加実績、英文論文誌のインパクトファクター獲得、向上などを定め、ブレゼンス・サービスピ・国際性の充実の可視化を行う。

- ① 各組織の活動計画実施状況をレビューし、PDCAを回しながら活動計画を見直すことにより、中期ビジョンが達成できる組織運営を行う。
- 学会内業務の規程・標準の策定・改訂を継続・強化し、責任分掌が明確で厳正な業務プロセスの構築・維持を継続する。
- 既に事実にとらわれない自由な発想でITインフラの維持・改善を継続し、学会内外の各種手続きの効率化を進め、事務上の電子情報の管理監督基準の策定を進める。
- 事務所の職務要件定義と教育計画を策定し、職員の実質向上(マナー・コミュニケーションスキル)に努める。

- ① 会員への価値提供を維持し、会員を緊ぎ止め、新たな会員を勧誘できる魅力あるサービスを継続的・戦略的に立案・実行し、会員を増強する。(サービスピ・組織運営共通)
- 現状の委員会や部門組織等を、学会内外で求められる機能と役割で継続的に見直し、産業界との連携拡大や中期ビジョンの達成が迅速・確実に行えるような組織を構築する。
- 予算策定や予算管理の仕組みの継続的な改善を通じて、予算執行管理の効率化と高品質化を進め、財務状態の健全性の確保と維持に努める。
- SICEを有効に評価できるベンチマーク指標を検討・採用し、4つの柱の達成度の可視化を行う。

- ① 国際会員へ提供できる価値を確認・強化し、新たな国際会員を勧誘できる魅力あるサービスを継続的・戦略的に立案・実行し、国際会員を増強する。
- 海外(特にアジア)の人材育成に貢献する具体策を検討する。(ブレゼンス・国際性共通)
- インパクトファクターを英文論文誌が獲得し、その値を増やすことを目指す。
- 英文HPの充実を実現する具体策を検討し、実行に移す。
- 特にアジア地区で開催予定の他学会のコンファレンスを戦略的・重点的に支援し、それらの学会でのSICEの国際的プレゼンスを向上させる。

- ① 英文論文集を国際データベースに登録したり、海外の主要大学図書館に頒布したりするなどして、英文論文集の国際的発信力を強化する。
- 現状関係を維持・向上する。
- SICEがさらに国際性を高めるために有効な、新たな国際学会との関係を継続的・戦略的に構築する。
- SICEの活動領域に関連する日本の優れた技術・製品の海外普及を推進し、国際産業界強化を目的とした国際標準化活動の支援を継続する。

2. 単年度計画 (2017年)

各委員会、部門、支部が策定した「単年度計画 (2017年)」を以下に示します。

番号	組織名	担当理事、部門長、支部長
01	総務委員会	石原委員長、山田(善)副委員長
02	財務委員会	長谷川委員長、山田(勉)副委員長
03	企画委員会	菅野委員長
04	学会賞委員会	太田委員長
10	会誌出版委員会	奈良委員長、滑川副委員長
11	論文集委員会	高橋(桂)委員長 喜多副委員長 (英)、浅井副委員長 (和)
12	Annual Conference (AC) 委員会	鈴木委員長
13	国際委員会	増田委員長、竹田副委員長
14	国際標準化委員会	菅野委員長
15	事業会員サービス委員会	(旧会員サービス委員会担当) 黒川委員長、佐々木副委員長 (旧事業推進連携委員会担当) 総田委員長、大矢副委員長
16	教育・認定委員会	三好委員長
18	戦略広報渉外委員会	石塚委員長
30	部門協議会	笹谷議長、塩谷副議長
31	計測部門	本谷部門長
32	制御部門	飯野部門長
33	システム・情報部門	大倉部門長
34	システムインテグレーション部門	神田部門長
35	産業応用部門	船木部門長
36	ライフエンジニアリング部門	中尾部門長
50	支部協議会	佐野議長、村田副議長
51	北海道支部	山本支部長
52	東北支部	石黒支部長
53	中部支部	由良支部長
54	北陸支部	神代支部長
55	関西支部	杉本支部長
56	中国支部	辻支部長
57	四国支部	久保支部長
58	九州支部	金城支部長

01 総務委員会

石原常務理事
山田 (善) 常務理事

組織名：総務委員会				
補足説明 ① 直轄諸規程の整備 ② 部門支部の規程の整備				
1月～3月 △ 理事会 △ 総会	4月～6月 △ 理事会	7月～9月 △ 理事会・代議員 △ 懇談会	10月～12月 △ 批大理事会 △ 理事会	
① 規程策定計画に沿った規程整備推進 (理事会・委員会の決議事項の成案化)				
② 部門・支部の原稿原稿確認・整備計画策定・計画に沿った原稿整備 (部門・支部の決議事項の成案化)				

組織名：総務委員会				
補足説明 ① 理事会、委員会の見直し・運用				
1月～3月 △ 理事会 △ 総会	4月～6月 △ 理事会	7月～9月 △ 理事会 △ 懇談会	10月～12月 △ 批大理事会 △ 理事会	
① 月例総務委員会を通じた理事会、委員会の課題抽出と解決、自由に課題を討議できる理事会への変革				
① 候補者推薦委員会にて役員候補者リスト作成				
理事会で承認を得る、候補者推薦(立候補)の宣言発行 △ 候補者推薦(立候補)の宣言発行 △ 批大理事会にて役員候補者リスト募集見直し △ 役員候補者リスト完成				

組織名：総務委員会				
補足説明 ① IT環境見直しによる会員サービス向上、業務効率化、経費削減 ② 学会新 web ページの検討				
1月～3月 △ 理事会 △ 総会	4月～6月 △ 理事会	7月～9月 △ 理事会・代議員 △ 懇談会	10月～12月 △ 批大理事会 △ 理事会	
① IT環境見直しによる会員サービス向上(会員システム)、業務効率化(会計システム)、経費削減(サーバ構築見直し)				
① 電磁的手法による組織運営の効率化(電子会議システム一本化)				
理事会報告 △ 理事会報告 △ 理事会報告				
② プレゼンテーションに向けた学会 web ページの更新(モバイル・SNS 活用、実施設計は事業委員会サービス委員会で実施) 1～3月 和田博康 批大理事会までにサービスイン その後継続的見直し				

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：総務委員会				
組織-定-①	① 事務局員の職務分担適正化と業務進捗管理方法の確立 ② 将来を見越した事務局業務の削減と事務局員採用方針の確立 ③ 事務局員の教育計画作成・実施（定常）			
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
△ 理事会	△ 理事会	△ 理事会・代議員懇談会	△ 総務委員会	△ 理事会
① 事務局員の職務分担、職務分担適正化				
① 総務委員会を通じた事務局業務進捗管理				
② より効率的な事務局組織への改組の準備・検討・現行整備				
③ 教育計画策定				
③ 教育計画の実施				
③ 教育効果確認				

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

02 財務委員会

長谷川常務理事
山田 (勉) 常務理事

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：財務委員会(事務局)				
組織-新-③	① 財務管理業務（定常業務） ② 管理会計の運用、管理会計に基づく予算管理の見直しと修正			
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
① 期末決算・事業報告作成 △ 内閣府提出準備 △ 内閣府提出	① 新役員変更届 △ 内閣府提出 △ 内閣府提出	① 中間決算 △ 内閣府提出	① 事業計画策定・予算策定 △ 内閣府提出準備 △ 内閣府提出 事業計画 中間決算結果報告 ・予算レビュー	① 期末決算
① 上期活動計画の見直し実施				
② 管理会計の運用、管理会計に基づく予算管理の見直しと修正				

03 企画委員会

菅野副会長

04 学会賞委員会

太田副会長

組織名：企画委員会 組織-新②	補 足 説 明				
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
△ 理事会 (1) 学会の将来ビジョンの再構築 (2) 学会の組織・活動の効率化方法策定	△ 理事会 (1) 学会の将来ビジョンの再構築 (2) 学会の組織・活動の効率化方法策定	△ 理事会 (1) 学会の将来ビジョンの再構築 (2) 学会の組織・活動の効率化方法策定	△ 理事会・代議員 懇談会 (3) 財務施策 TF 実施 (3) 広報戦略検討・実施 (4) 拡大理事会準備	△ 理事会 (3) 財務施策 TF 実施 (4) 広報戦略検討・実施 (5) 拡大理事会準備	△ 理事会

組織名：学会賞委員会 サ-定④	補 足 説 明				
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
△ 理事会 ① 定常事業： 学術奨励賞の候補選考	△ 理事会 ① 定常事業： AC Award の候補選考	△ 理事会 ① 定常事業： AC Award の候補選考	△ 理事会 ① 定常事業： AC Award の候補選考	△ 理事会 ① 定常事業： AC Award の候補選考	△ 理事会
			△ 拡大理事会 代議員懇談会 ② フル論文査読への移行に伴う、AC Award の選考方法の確実化	△ 理事会	
					△ 理事会 ③ 学会賞委員会、各部門、各支部 が所掌する各賞の整理と見直し

10 会誌出版委員会

奈良常務理事
滑川理事

11 論文集委員会

高橋常務理事
浅井常務理事
喜多理事

組織名：会誌出版委員会 サ-定① ア-定④	補 足 説 明			
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月
△ 理事会 第6回委員会	△ 理事会 第2回委員会	△ 理事会 第3回委員会	△ 理事会 第4回委員会	△ 理事会 第5回委員会
1. 学会誌のあり方検討 2. 学会誌特集の充実 ・テーマ選定・スケジューリング検討 ・2017/10.11 最終企画 (第1回) ・2017/8.9 最終企画 (第6回)	1. 学会誌のあり方検討 2. 学会誌特集の充実 ・テーマ選定・スケジューリング検討 ・キープワード解説の充実 ・2017/12-2018/1 最終企画 (第2回)	特集号特別編集委員会 電子出版の検討 ・電子出版の検討 ・2018/2-5 最終企画 (第3-4回)	第4回委員会 電子出版の検討 ・電子出版の検討 ・2018/6-7 最終企画 (第5回)	電子出版の検討 ・電子出版の検討 ・2018/6-7 最終企画 (第5回)
3. テクノロジーリソース ・第9巻発行				
4. 過去アーカイブ電子化 ・委員教訓録と効率化	電子化予算検討 ・WG 業務分担検討	Vo1.53(2013 一部電子化) ・依頼文の整理・統一		
5. 運営効率化				

組織名：論文集委員会 サ-定① 四-定① 四-新③	補 足 説 明			
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月
			論文集委員会の開催 年3回開催 論文数開催 (ACにて)	
			1. 和論誌の発行 ・特集号の企画促進などを行い投稿数、掲載論文数の増加をはかる ・編集業務のモニタリングなど委員会管理を強化する	
			2. JQSI 誌の発行 ・10 巻記念などを含め、特集号の企画促進を行い投稿数、掲載論文数の増加をはかる ・論文誌の地位向上のためインパクトファクター取得に向けて編集体制、論文誌の掲載内容など継続的な検討、改善を進める ・編集業務のモニタリングなど委員会管理を強化する	

12 Annual Conference (AC) 委員会

鈴木常務理事

- 17 -

13 国際委員会

増田常務理事
竹田理事

- 18 -

組織名：Annual Conference 委員会 ブ-定③ サ-定②	補 足 説 明	AC・部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大し、国内外に卓越した成果を発表する場を提供し続ける。(フレゼンス・サービス共通) ①AC実行委員会とともに年次のACを企画実行する。 ②論文に関する議論 (レギュラー・セッション・バー・側)、直報投稿チェック、JCMS1との連携など) ③情報発信方向上 ④ACの方向性の明確化	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	①SICE2017 準備 AC 本体、SICEWEB、併設事業、ほか	①SICE2017 実施 ②AC 本体、SICEWEB、併設事業、ほか	①SICE2017 事業・決算報告 とりまとめ 161220 理事会決議により 2017 年は SICEWEB 中止		
②論文に関する 2016 年実績報告	②問題点の把握と改善	③情報発信方向上 ④ACの方向性の明確化 同時 AC 委員会、拡大 AC 委員会に意見聴取を行う			
	②2017 年実績報告				

- 18 -

組織名：国際委員会 国-定②	補 足 説 明	1-1 他学会との交流 1-1-1 他学会との共催・協賛・Technical Co-sponsor の推進 1-1-2 他学会との関係強化に向けた協定の締結推進 1-2 Annual Conference を通じた活動 1-2-1～3 VIP Reception, Meeting (Friendship Lunch) を SICE AC 開催中に実施、Joint Session の検討、Student Travel Grant Award (STGA)	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	1月～3月	他学会との共催・協賛・Technical Co-sponsor の実施 (補記) 共催・協賛・Technical Co-sponsor のガイドライン検討			
	ACA(中国)、ECTI(タイ)との活動協力の検討				
	SICE AC(SICE2017)開催中のVIP Reception および ICROS 等との Meeting の準備と実施				
	SICE AC(SICE2017)における STGA の準備と実施				

- 20 -

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：国際委員会	補 足 説 明	1-3 国際団体における活動(IMEKO) 1-3-1 日本学術会議との連携 1-3-2 IMERO 世界大会および理事会対応 1-3-3 IMERO2021 世界大会(構成員)開催に向けた支援 1-4 国際団体における活動(IFAC) 1-4-1 IFAC2023 世界大会(構成員)開催に向けた支援 1-4-2 IFAC 関連会議の日本開催支援 1-4-3 日本における IFAC 活動の広報	4月～6月	7月～9月	10月～12月
国-定③					
1月～3月					
IMEKO 委員会		SICE の IMERO 委員会と日本学術会議総合工学委員会内の IMERO 委員会との連携を継続して行う 2017 年の IMERO 関連行事(特に TC 主体)への積極的参加を支援する 第 60 回理事会(尚期・場所未定)に代表者を派遣する IMEKO 委員会(IMEKO2021 世界大会準備委員会)の活動を支援する			
IFAC 委員会		IFAC2023 世界大会開催へ向けた体制を整える IFAC 関連会議の日本開催の支援、日本における IFAC 活動の広報を継続的に行う			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

14 国際標準化委員会

菅野副会長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：国際委員会	補 足 説 明	2-1 SICE の国際的プレゼンスを高める取組み 2-1-1 海外(特にアジア)の人材育成に貢献する具体案を検討する 2-1-2 インスタトフアクターを英文論文誌が獲得し、その値を増すことを目指す 2-1-3 アジア地区で開催予定の他学会のカンファレンスを戦略的に支援する	4月～6月	7月～9月	10月～12月
国-新⑤					
1月～3月					
海外(特にアジア)の人材育成に貢献する具体策、英文論文誌のインパクトファクター取得、アジア地区で開催予定の他学会のカンファレンスの戦略的な支援、に関する具体的な方策を検討する。					

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：国際標準化委員会	補 足 説 明	①消費者機械のシステム機能保障 WG ②床度計国際標準化 WG ③認証工学 WG ④SICE AC、学会誌での国際標準化関連テーマの発表 ⑤国際標準化セミナーの共催	4月～6月	7月～9月	10月～12月
国-定④					
1月～3月					
消費者機械のシステム機能保障 WG 活動					
床度計国際標準化 WG 活動					
認証工学 WG 活動					
フォーラム開催					
SICE AC、学会誌での国際標準化関連テーマの発表					
SICE 2017 05 企画					
国際標準化セミナー主催 他団体との共催					

15 事業サービスクomitee

黒川常務理事・総田常務理事
佐々木理事・大矢理事

組織名：事業サービスクomitee	補足説明	10月～12月
プ定① サ定③ サ新①	⑤日本学術会議との連携：多分研応用小委員会(自動制御連合講演会運営委員会)との連携 ⑥安全のための計測・制御・システムを考える会(安全TP)の活動：(ARCフォーラムへの協力を含む) ⑦その他委託団体との連携 ⑧体験セミナー：見学会員による体験セミナーや現場見学会を実施し会員へのサービス向上、見学会員への価値向上、また会員新規獲得を目指す。 サ新①：会員への価値提供を維持し、会員を増強する。 ⑨会員・賛助会員増強施策：会員・賛助会員増強策として会員へのヒアリング等をもとにサービス改善(メルマガ、IP強化、会員交流の場、女性向けイベント企画等)を図る。	7月～9月
1月～3月	⑩日本学術会議と連携：多分研応用小委員会(自動制御連合講演会運営委員会)との連携	4月～6月
	⑪安全のための計測・制御・システムを考える会(安全TP)の活動：安全TP活動、定期的な会合・サロンの実施	10月～12月
	⑫その他委託団体との連携 (JIS 等)	
	⑬体験セミナー： 年間計画策定(3月)	準備、実施、フォローアップ (5～11月)
	⑭会員・賛助会員増強施策： 施策検討(1～4月)	準備、実施、フォローアップ (5～11月)
	⑮ プレゼンス向上に向けた学会 web ページの更新 (モバイル・SNS 活用、事業サービスクomitee委員会で実施設計) 1～3月 休刊掲載	社大理事会までにサービスイン その後継続の見直し

組織名：事業サービスクomitee	補足説明	10月～12月
プ定① サ定③ サ新①	① I-S 連携活動：同会長職のステアリング会議や実務者により、同学会の連携方針を確立する。SSH への出席により高校生へのアットリナー活動を行う。 ② 横断連合との連携：定時総会への出席やコンファレンスへの協力、AC での連携等を継続実施する。 ③ 他学会連携：ISICE 以外との他学会との連携 (他学会行事協賛を含む) ④ JEDIMA 等工業会との連携：計画期、技術フォーラムなどのイベントを通じて連携を推進し、産業界での SICE のプレゼンス向上を図る。	7月～9月
1月～3月	① JSCIE 連携活動 関西若手研究者発表会(1月)	4月～6月
	② 横断連合との連携 定期総会(4月)	7月～9月
	③ 他学会行事協賛 (他学連協)	
	④ JEDIMA 等工業会との連携 JEDIMA-SICE 連携会議(3月)	10月～12月
	⑤ I-S 連携企画運営会議 ステアリング会議(5月)	7月
	⑥ チュートリアル講座(7月)	10月～12月
	⑦ SSH 共同出版(7月)	11月
	⑧ AC 連携(7月)	11月
	⑨ コンファレンスなど	11月
	⑩ I-S 連携企画運営会議 会長・副会長懇談会(11月)	11月
	⑪ JEDIMA 社訓展 2017 東京(11月)	11月

組織名：事業サービスクomitee	補足説明	10月～12月
プ定① サ定③ サ新①	⑤日本学術会議との連携：多分研応用小委員会(自動制御連合講演会運営委員会)との連携 ⑥安全のための計測・制御・システムを考える会(安全TP)の活動：(ARCフォーラムへの協力を含む) ⑦その他委託団体との連携 ⑧体験セミナー：見学会員による体験セミナーや現場見学会を実施し会員へのサービス向上、見学会員への価値向上、また会員新規獲得を目指す。 サ新①：会員への価値提供を維持し、会員を増強する。 ⑨会員・賛助会員増強施策：会員・賛助会員増強策として会員へのヒアリング等をもとにサービス改善(メルマガ、IP強化、会員交流の場、女性向けイベント企画等)を図る。	7月～9月
1月～3月	⑩日本学術会議と連携：多分研応用小委員会(自動制御連合講演会運営委員会)との連携	4月～6月
	⑪安全のための計測・制御・システムを考える会(安全TP)の活動：安全TP活動、定期的な会合・サロンの実施	10月～12月
	⑫その他委託団体との連携 (JIS 等)	
	⑬体験セミナー： 年間計画策定(3月)	準備、実施、フォローアップ (5～11月)
	⑭会員・賛助会員増強施策： 施策検討(1～4月)	準備、実施、フォローアップ (5～11月)
	⑮ プレゼンス向上に向けた学会 web ページの更新 (モバイル・SNS 活用、事業サービスクomitee委員会で実施設計) 1～3月 休刊掲載	社大理事会までにサービスイン その後継続の見直し

16 教育・認定委員会

三好理事

18 戦略広報渉外委員会

石塚理事

組織名：教育・認定委員会 ブ-定④ 1. 計測評価エンジニア資格 2. プロセス塾 3. CPD ポイント 4. JABEE	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	1. 計測評価エンジニア資格 ・ WG 会合 (前年度第6回) ・ 場所と日程の確定 ・ SICE 本部で選考面接 ・ 応募者の取り込みなど、受験者 陣のための制度拡充を検討 (通 年) 2. プロセス塾 ・ スクーリング (前年度第5回) ・ WG 会合 ・ 教育内容を検討 (通年) 3. CPD ポイント ・ CPD 有効活用のために他資格 とのリンクを検討する。(通 年) 4. JABEE ・ 情報収集 (通年)	1. 計測評価エンジニア資格 ・ 受験者開講 ・ アカデミック試験問題検討 ・ 北海道・中部セミナー講師選定 ・ 北海道・中部セミナー講師選定	・ WG 会合 (7, 8 月) ・ 受験者開講 ・ 北海道・中部セミナー講師選定 ・ 北海道・中部セミナー講師選定	・ 関東 (本部) ・ 北海道, 中部, 九州各支部で試験実施 ・ WG 会合 (12 月) ・ 速報面接準備

組織名：戦略広報渉外委員会 ブ-新① ブ-新③	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	1. 計測評価エンジニア資格 ・ WG 会合 (前年度第6回) ・ 場所と日程の確定 ・ SICE 本部で選考面接 ・ 応募者の取り込みなど、受験者 陣のための制度拡充を検討 (通 年) 2. プロセス塾 ・ スクーリング (前年度第5回) ・ WG 会合 ・ 教育内容を検討 (通年) 3. CPD ポイント ・ CPD 有効活用のために他資格 とのリンクを検討する。(通 年) 4. JABEE ・ 情報収集 (通年)	1. 計測評価エンジニア資格 ・ 受験者開講 ・ アカデミック試験問題検討 ・ 北海道・中部セミナー講師選定 ・ 北海道・中部セミナー講師選定	・ WG 会合 (7, 8 月) ・ 受験者開講 ・ 北海道・中部セミナー講師選定 ・ 北海道・中部セミナー講師選定	・ 関東 (本部) ・ 北海道, 中部, 九州各支部で試験実施 ・ WG 会合 (12 月) ・ 速報面接準備

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

30 部門協議会

笹谷常務理事
塩谷理事

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：部門協議会			
補足説明	AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続し、拡大し、国内外に卓越した成果を発表する場を提供し続ける。		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会
		部門・支部合同会議	
部門活動の継続的な支援、部門大会の実施内容の共有化、研究発表の場の提供、イベント企画・実施			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：部門協議会			
補足説明	次世代の部門・部会・研究会の立上げや、部門・支部の連携強化・活性化を継続し、中長期的社会的ニーズに応える継続的前門活動を展開する。		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会
活動計画共有化	活動計画の見直し	活動実施状況確認・修正	活動計画の策定
		部門・支部合同会議	
		部会新設・廃止の検討	活動結果の反省
部門活動の継続的な支援、新規活動構想・活性化案の検討、部門協議会・メールでの情報交換			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：部門協議会			
補足説明	各種学会賞の権威を維持しながら賞の贈呈を継続し、会員の社会的地位・価値の向上に資する		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会	△部門協議会
		部門・支部合同会議	
部門活動の継続的な支援、研究発表の場の提供、賞の贈呈			

31 計測部門

本谷部門長

組織名：計測部門			
補足説明	ブー定-③：AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大 サ-定-②：国内外に卓越した成果を發表する機会確保		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
第33回センシングフォーラムの企画			第34回センシングフォーラムの企画
			第34回センシングフォーラムの広報
第33回センシングフォーラムにおける関西支部および他学会などの合同セッションの企画			第34回センシングフォーラムにおける他学会・支部とのセッションの企画
第33回センシングフォーラムへの企業広告・展示の募集			第34回センシングフォーラムへの記号 広告・展示の募集
第33回センシングフォーラム特集号論文の産出			第34回センシングフォーラム論文招待 集号への投稿募集
			第34回センシングフォーラム論文招待 集号への投稿募集
第33回センシングフォーラム新集運営委員の計測部門運営委員会への参画			

組織名：部門連携・活性化委員会			
補足説明	サ-定-⑤：次世代の部門・部会・研究会の立上げや、部門・支部の連携強化・活性化を継続し、中長期的な社会的ニーズに応える継続的部門活動を展開する。		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
SICE AC における部門連携イベントの検討	部門連携・活性化専門委員会の開催 (年3回)		
			SICE2017

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：計測部門				
補 足 説 明	ブー定③；AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大 サ一定②；国内外に卓越した成果を發表する場を提供			
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
「温度計測部会」主催行事の実施				
3月：講演会			11月：見学会	
「力学計測部会」主催行事の実施				
2月：講演会・見学会	5月：有機微量分析合同シンポジウム		10月：計量史をさぐる会（シンポジウム）	
「リモートセンシング部会」主催行事の実施				
3月：リモートセンシングシンポジウム	5月：リモートセンシング学会で の共同セッション（案）			
「パターン計測部会」主催行事の実施				
			11月：パターン計測シンポジウム	
「センシングフォトリニクス部会」主催行事の実施				
「先端電子計測部会」主催行事の実施				

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：計測部門				
補 足 説 明	ブー定③；AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大 サ一定②；国内外に卓越した成果を發表する場を提供			
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
「スマートセンシングシステム部会」主催行事の実施				
「アンビエント・センシング応用部会」主催行事の実施				
「計測における課題部会」主催行事の実施				
部門・部会/調査研究会の運営委員会の実施				
2月：センシングフォーラム	4月：パターン計測部会 先端電子計測部会 スマートセンシングシステム部会		8月：先端電子計測部会 スマートセンシングシステム部会 計測部門 力学計測部会	11月：温度計測部会 パターン計測部会 12月：力学計測部会
3月：温度計測部会	5月：温度計測部会 6月：センシングフォーラム 計測部門 力学計測部会 スマートセンシング部会			
SICE2017における部会OSの企画				SENSOR EXPO JAPAN 2017 への出席 計測展 2017 への出席

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：計測部門				
補 足 説 明	サ一定④；各種学会賞の権威を維持しながら賞の贈呈を継続し、会員の社会的地位・価値の向上に資する。			
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
計測部門技術奨励賞の選考		表彰 計測部門論文賞の選考 表彰	表彰 計測部門 優秀論文 賞の選考 表彰	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

32 制御部門

飯野部門長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：制御部門 補 足 サ一定-③、サ一定-④ サ一定-⑤ サ一定-⑥	① 部会・調査研究会の活動により制御分野の発展に寄与するとともに社会に発信する。 ② 事業委員会・広報委員会の活動による社会への発信と、社会発展への寄与。 ③ 産業応用部門との協力により、産・学・業の連携を図る。	10月～12月
1月～3月	4月～6月	7月～9月
各部会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施		事業委員会；SICEセミナー・講演会の実施
各調査研究会の運営委員会、研究会、講演会、見学会、セミナーなどの実施		
MCS における産業応用部門との Joint OS の開催		産業応用部門大会における Joint OS の開催
広報委員会：部門広報活動の実施		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：制御部門 補 足 サ一定-③、サ一定-④ サ一定-⑤ サ一定-⑥	① 部門運営会議により、部門活動の PCA サイクルを実現する。 ② 2014 年から各部会・委員会のシンポジウムを統合し、開催の負担軽減と相互に情報交換できるよう にマルチシンポジウム(MSCS)を開催している、これを継続開催し、発展させる。 ③ 2015 年より MCS に併設で開催している制御部門国際シンポジウム (ISCS: International Symposium on Control Systems)を継続開催し、発展させる。 ④ 部門賞を贈呈する。	10月～12月
1月～3月	4月～6月	7月～9月
第 4 回制御部門マルチシンポ ジウム (MSCS2017) 開催 ・ International Symposium on Control Systems (ISCS) ・ 制御懸念シンポジウム ・ フラットモテリングシンポ ジウム ・ 通信学専攻制御シンポジウム ・ 誘導制御シンポジウム ・ システム構築と制御技術シ ンポジウム	第 1 回部門運営委員会	第 2 回部門運営委員会
	MCS フォロー企画の講演会・見学会・セミナーなどの実施	
部門賞贈呈式 (MSCS 2017 内)		部門賞の選考

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：制御部門 補 足 サ一定-③、サ一定-④ サ一定-⑤ サ一定-⑥	① 部会・調査研究会の活動により制御分野の発展に寄与するとともに社会に発信する。 ② 事業委員会・広報委員会の活動による社会への発信と、社会発展への寄与。 ③ 産業応用部門との協力により、産・学・業の連携を図る。	10月～12月
1月～3月	4月～6月	7月～9月
各部会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施		事業委員会；SICEセミナー・講演会の実施
各調査研究会の運営委員会、研究会、講演会、見学会、セミナーなどの実施		
MCS における産業応用部門との Joint OS の開催		産業応用部門大会における Joint OS の開催
広報委員会：部門広報活動の実施		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

33 システム・情報部門

大倉部門長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：システム・情報部門 補 足 説 明 ブ レ ン ダ ー 定 ① ブ レ ン ダ ー 定 ②	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
		活動計画実施状況のレビューとPDCAによる評価・見直しの狙い、ポイントの具体的な見直しについて検討	活動計画実施状況のレビューとPDCAによる評価・見直しの狙い、ポイントの明確化	
	Dropboxによる各種資料等の共有、および管理運営体制のさらなる効率化・簡略化の方策を提案			
	部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるオーパスベットの低減について検討			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：システム・情報部門 補 足 説 明 ブ レ ン ダ ー 定 ① ブ レ ン ダ ー 定 ②	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	部門大会の運営方法（委員会組織等）の点検・見直し	部門大会の実行委員会等の組織化・開催準備	部門大会の今後の方向性および具体策について検討	
	部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるオーパスベットの低減について検討			
	部門大会の特集（委員会の構成等）の点検・見直し			
	部門大会の特集の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定			
	部門活動の今後の方向性および具体策の検討			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：システム・情報部門 補 足 説 明 他（行事予定）	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	第29回自律分散システム・シンポジウム	第17回ヒューマンマシンシステム研究会	7月 分子ロボティクス月例会研究会	10月 第18回ヒューマンマシンシステム研究会
	3月 知能システムシンポジウム 第61回自律分散システム研究会 第12回社会システム研究会 SW調査研究会第14回調査研究会 第5回身体性システム科学研究会	5月 第56回システム工学部会研究会 第13回社会システム研究会 分子ロボティクス月例会研究会 関係システムデザイン調査研究会研究会例会	8月 賢者の先端研究会 第14回社会システム部会研究会 第23回自律分散システム・シンポジウム 9月 第62回自律分散システム研究会 B10000国内大会 関係論的システムデザイン調査研究会研究会例会 SW調査研究会第16回調査研究会	11月 第57回システム工学部会研究会 第60回自律分散システム部会研究会 セルオートマトン講習会 第6回身体性システム科学研究会 第3回記号制システム調査研究会
	第11回CI研究会 CIフォーラム2017 SW調査研究会第15回調査研究会 第2回記号制システム調査研究会 第11回システム認知研究会			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

34 システムインテグレーション部門

神田部門長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：SI 部門	補足説明	10月～12月
プ-定③、サ-定②	プ-定③、サ-定②： 部門大会などのイベントの開催を継続、拡大し、国内外に卓越した成果を発表する場を提供し続ける。 また、大会の最速な開催法への変化も視野にあり方を見直し、トライアル等を実施する。	
1月～3月	△ 理事会 △ 理事会 △ 総会	7月～9月 △ 理事会 △ 理事会・代議 員総会
SI2016/SI12016 会計処理/優秀講演者のフォロー		
	SI2017/SI12017 運営企画のフォロー	
	SI2018 運営企画のフォロー	
	SI12018 or 2019 の実行委員長の選定と運営企画のフォロー	
	SI2019 行委員長選定と実行委員会立上げ、運営企画のフォロー	
	SI2020 行委員長の選定	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：SI 部門	補足説明	10月～12月
サ-定⑤	次世代の前門・部会・研究会の立上げ、部門・支部の運動強化、活性化を継続し、中長期的社会的ニーズに応える継続的部門活動を展開する。	
1月～3月	△ 理事会 △ 理事会 △ 総会	7月～9月 △ 理事会・代議 員総会
	部門運営委員会(幹事団)による前年度計画した部会活動の実施と状況把握と予算書・企画書等の事務手続きの充実と実施のフォロー	
	部門運営委員会(幹事団)での部会行事の支那連携の検討と推進の実施	
	広報情報委員 (HP 担当)による行事の情報発信の強化・継続	
	新年度休刊・各種情報等HP更新	
	部会キーワード/キーマンの継続した抽出	
	将来計画委員会による他分野連携の検討・企画立案の実施	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：SI 部門	補足説明	10月～12月
サ-定④	各種学会賞・部門賞の獲得を維持しながら賞の贈呈を継続し、会員の社会的地位・価値の向上に資する。また、積極的な若手研究者の発掘のためのノミネート委員会等を新設して表彰の活性化を図る。さらに、若手研究者をエンカレッジする賞のあり方について議論して、賞の新設等を検討する。	
1月～3月	△ 理事会 △ 理事会 △ 総会	7月～9月 △ 理事会・代議 員総会
	表彰委員会組織化	
	FA 財団賞ノミネート	
	RSM 活用サービロボットコンテスト	
	レスキューロボットコンテスト	
	フェューチャコンピニエンスストアコンテスト	
	SI1017/SI12017 投稿者へのノミネート情報発信	
	RT ミドルウェアコンテスト	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：SI 部門			
補足説明	現状関係を保持・継続し、学会の国際性を維持・向上する。		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
△ 理事会 ▲ 総会	△ 理事会	△ 理事会・代議 員総会	△ 理事会
SI12017 運営企画のフォロー			
SI12018 or 19 プロポーザル			
SI1 ステアリングコミッティ			
IR6S2017 (IEEE/RSJ)への貢献			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

35 産業応用部門

船木部門長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：SI 部門			
補足説明	部門の管理運営に関する情報交換の活性化、部門ごとの財務管理体制の強化、新規領域への進出を目指す ※部門・部会への重点的予算支援、小規模活動の統合による予算有効活用		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
△ 理事会 ▲ 運営委員会 (電子審議)	△ 理事会 ▲ 運営委員会 (電子審議)	△ 理事会・代議 員総会 ▲ 運営委員会 (電子審議)	△ 理事会 ▲ 運営委員会 (電子審議)
部門活動状況 (予算運用など) 把握 (運営委員会幹事団)			
将来計画委員会による部会活動状況把握と部会統合に向けた検討		将来計画委員会による新規事業 事業の検討・計画立案	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：産業応用部門			
補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部門大会の実施、部会主催の行事の実施を着実に行う ・ 部門・部会の業務を実施する ・ SICE 会員の持つ知識を活用した教育・コンカル・イベントを企画実施する、具体的には制御部門との連携を継続する 		
1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
1月： 部門運営委員会の新年度の体制構築 各部会主催行事の実施	部門運営委員会にて部門大会の企画準備開始、初回報告準備 各部会主催行事の実施 部門賞候補者推薦会告	部門運営委員会にて部門大会の企画準備開始、初回報告準備 各部会主催行事の実施 SICE AC におけるスベントやセッションや関連 OS の運営・実施とその支援	部門大会の実施 ・ 流体計測制御シンポジウム ・ 計測制御ネットワークシンポジウム ・ 産業システムシンポジウム ・ 計測制御エンジニア総会 各部会主催行事の実施
3月： 制御部門マルチプラットフォームでの連携 OS の実施	産業応用部門年次大会での制御部門 OS およびその世間合同企画の調整と依頼	部門賞候補者推薦締切 部門長選考委員会の設置と審議・決定 産業応用部門年次大会での合同企画 OS の準備	部門賞受賞者への連絡と賞状作成 表彰式の実施 (部門大会にて) 次年度制御部門大会での OS 連携にむけた企画調整

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：産業応用部門 サー定⑤ 国一新⑤ 組一①、組一新③	補 足 説 明	1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行	各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行	各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行	各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行	各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行	各種委員会の実施 ・ 部門運営委員会 ・ 各部会委員会 他 ・ 中期ビジョン達成と財務体質の健全化に貢献する部門運営体制の検討と可能な方策の実行
SICE.AC におけるスベンシャルセッションの企画立ち上げおよび関連組織との連携確認、海外オンラインイとの連携確認	SICE.AC におけるスベンシャルセッションの企画詳細の調整、会等による情報発信、関連企画との調整を含めた総合的な準備	SICE.AC におけるスベンシャルセッションの企画におけるスベンシャルセッションにおけるスベンシャルセッション実施の反省点と次年度に向けた課題克服に對する方策を検討	SICE.AC におけるスベンシャルセッション実施の反省点と次年度に向けた課題克服に對する方策を検討	SICE.AC におけるスベンシャルセッション実施の反省点と次年度に向けた課題克服に對する方策を検討	SICE.AC におけるスベンシャルセッション実施の反省点と次年度に向けた課題克服に對する方策を検討

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

36 ライフエンジニアリング部門

中尾部門長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：ライフエンジニアリング部門 サー定③ サー定④	補 足 説 明	1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
4. 生体医工学に関する講演会を実施する。				1. ライフエンジニアリング部門シンポジウム/生体・生理工学シンポジウムを実施する。 3. 若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施する。 5. 電気生体工学部研究会研究会を実施する。	2. 国際会議 ultra theatre を実施する。 6. 関連諸団体との連携セミナーを開催する。
				ブー定③、サー定④、AC、部門・支部大会などのイベントの開催を継続・拡大し、国内外に卓越した成果を挙げさせる場を確保し続ける。(プレゼンス・サービス共通)	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

51 北海道支部

山本支部長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

50 支部協議会

佐野常務理事
村田理事

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：北海道支部	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
補 足 説 明	<p>● 支部会議</p> <p>● 第49回計測自動制御学会北海道支部学術講演会(日本ロボット学会北海道ロボト技術研究専門委員会との共催)</p> <p>● 計測自動制御学会北海道支部主催特別講演会</p> <p>● 共催事業：機械系マイクログルンボシワム</p>	<p>● 支部運営委員会</p>	<p>● 協賛事業：ロボットライアスロン</p> <p>● 協賛事業：大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術集中講演会</p> <p>● 計測制御エンジニアセミナー</p>	<p>● 支部運営委員会</p> <p>● 支部運営</p>

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：支部協議会	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
補 足 説 明	<p>プ-定-③, サ-定-④, 部間・支部大会などのイベントの開催を継続し、拡大し、国内外に広範囲に波及した成果を発表する機会も提供する。</p> <p>プ-新-①, サ-新-②: SICE会員の修学活動を活用し、学一産、産一学の繋ぎ・コンサル・イベント等を企画し、実行に務める。</p> <p>プ-定-⑤, サ-定-⑥: 次世代の部門・協会・研究会の立ち上げや、部門・支部の連携強化、活性化を継続し、中長期的な社会的ニーズに対応できる組織的活動を展開する。</p> <p>サ-定-⑥: 地理的孤立性にも即した支部間の事業等を推進し、地域におけるプレゼンス・サービスを向上させる。</p>	<p>メールマガジンやSICEカレンダーにて各支部の取り組みの情報を共有する。広域・人的交流の面で、支部事業の円滑な実施をサポートする。</p> <p>4月第1回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p> <p>9月第2回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p> <p>11月第3回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p>	<p>9月第2回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p> <p>11月第3回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p>	<p>11月第3回支部協議会を開催 ・支部主催・共催事業を推進するための議論を行う。効果的・効率的な活動の共有を促す。</p>
SICE AC 2017 への論文投稿を促す。	SICE AC 2017 への参加要請を促す。			
事務同士の適切な事務分担も含め、目標達成に向けて協力を行う。	SICE AC 2016 への論文投稿を促す。			

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

52 東北支部

石黒支部長

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：東北支部	補 2.1 学術交流活動 2.1.1 研究会の発表, 2.1.2 地域学生学術交流活動の検討	10月～12月
他	足 2.2 地域産業支援活動 2.2.1 地域企業技術者支援活動の検討, 2.2.2 産学連携活動奨励策の検討 明 2.3 社会貢献活動 2.3.1 小・中学生向け科学実験講座への支援, 2.3.2 高校生向けセミナーの開催検討 2.3.3 一般向け啓発活動の検討	7月～9月 10月～12月
1月～3月	4月～6月	7月～9月
2.1.1 各県の世話人と協議して、開催時期・場所の再検討をするなど、さらに充実させるための活性化策を引き続き検討・実施する。また、研究会の開催直前に実施する、各県の専門委員・顧問と幹事との間での、活性化策を検討するための打合せを実施する。		
2.1.2 各研究会の後に必ず技術交流会を行い、学生間の相互交流を促進する。		
2.2.1 他の学会などで既に行われている地域企業技術者同士の Face to face の情報交換・相互交流について引き続き調査を継続し、その支援について検討する。		
2.2.2 地域企業と大学・高専の連携活動・学生の企業へのインターンシップ・工場見学などを奨励するための具体案について検討する。		
2.3.1 各大学・高専で行っている科学実験講座やソフトウェア講習会などへの支援（床席等）を引き続き積極的に行う。		
2.3.2 大学進学に関する計測・制御・システム分野への興味や関心を高めるために、高校生向けセミナー・模擬授業・デモンストレーションの開催を引き続き検討する。		
2.3.3 計測・制御システム分野の研究や技術開発の社会への貢献を一般の人々に理解していただくための啓発活動の具体策を検討する。		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：東北支部	補 2.1 学術交流活動 2.1.1 研究会の発表, 2.1.2 地域学生学術交流活動の検討	10月～12月		
他	足 2.2 地域産業支援活動 2.2.1 地域企業技術者支援活動の検討, 2.2.2 産学連携活動奨励策の検討 明 2.3 社会貢献活動 2.3.1 小・中学生向け科学実験講座への支援, 2.3.2 高校生向けセミナーの開催検討 2.3.3 一般向け啓発活動の検討	7月～9月 10月～12月		
1月～3月	4月～6月	7月～9月		
2月：第307回研究会 (宮城県)	5月：第308回研究会 (岩手県)	8月：システム制御研究会 (松田県)	11月：第312回研究会 (福島県)	12月：第313回研究会 (宮城県)
2月：運営委員会 (メール審議)	5月：運営委員会 (メール審議)	8月：運営委員会 (メール審議)	11月：運営委員会 (メール審議)	12月：運営委員会 (メール審議)
1月：支部会議	4月：運営委員会 (メール審議)	7月：運営委員会 (メール審議)	10月：運営委員会 (メール審議)	10月：予集会議

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：東北支部	補 4.1 web 広報活動 4.1.1 研究会の論文データベース強化 4.1.2 英語webページの強化 4.1.3 地域活動の広報強化 明 4.2 対外連携活動 4.2.1 共催・協賛行事広報の実現	10月～12月
他	1月～3月	4月～6月
1月～3月	4月～6月	7月～9月
4.1.1 論文データベース化は、ほぼ実現している。今後も現状維持を行うように努力する。		
4.1.2 引き続き、英語化すべきwebページの内容検討を継続する。		
4.1.3 地域活動の実態調査を継続する。		
4.2.1 共催・協賛可能な新しい行事の調査を継続する。		

53 中部支部

由良支部長

54 北陸支部

神代支部長

組織名：中部支部 他	0：定常活動（支部会議、運営委員会、定例顧問会議、中部支部シンポジウム、オープンラボ、若手研究発表会、特別顧問エンジニア試験、中部支部見学会、研究委員会活動、支部賞） 1：会員メトリックを支援できるメリハリをつけた支部事業の推進 2：支部活動の財務健全化 3：支部活動の活性化	10月～12月	10月～12月
1月～3月	0：定常活動 ・中部支部第48期（平成29年度）支部会議・特別講演会 ・第1回運営委員会 ・支部賞・学業成績優秀賞	7月～9月	・第3回運営委員会 ・中部支部シンポジウム
4月～6月	・第2回運営委員会	4月～6月	・第4回運営委員会 ・定例顧問会議 ・オープンラボ・若手研究発表会 ・特別顧問エンジニア試験 ・中部支部講習会、見学会、有料講習会
7月～9月	・研究会・セミナー・講演会	7月～9月	・第4回運営委員会 ・第3回運営委員会 ・支部講演会を同時開催（3回を予定、うち1回は特別講演会）
10月～12月	・公開可能な発表資料の集中保管と会員への提供する仕組みを検討する体制づくり ・講習会に対する会員の要望、ニーズ調査、会員入会後の定着率調査 ・「支部活動貢献賞」、コラボイベント、産学連携活動活性化の可視化検討	10月～12月	・産学官マッピングイベントに出展しSICE会員のシニアズビルによる連絡構成と特典周知による賛助会員増に努める。

組織名：北陸支部 補 足 説 明	組一定①：定常活動（支部会議、特別講演会、運営委員会、支部講演会） 組一定②：支部運営の効率化 プ一定③、プ一定④：産学官および他学会との連携強化と一般・賛助会員増加対策 サ一定⑤、組一定⑥、サ一定⑦、サ一定⑧：学生会員増加対策、若手奨励賞、優秀論文発表賞の募集・表彰 組一定⑨、サ一定⑩、サ一定⑪：AC2017開催支援	10月～12月	10月～12月
1月～3月	0：定常活動 ・支部会議 ・新田合同運営委員会、特別講演会	7月～9月	・第3回運営委員会 ・第4回運営委員会
4月～6月	・第2回運営委員会	4月～6月	・第2回運営委員会 ・支部講演会を同時開催（3回を予定、うち1回は特別講演会）
7月～9月	・支部運営の効率化 ・委員構成等の再検討	7月～9月	・支部講演会等における一般及び特別会員の増進と積極勧誘 ・他学会との連携・協賛事業を支援
10月～12月	・産学官および他学会との連携強化と一般・賛助会員の増加対策	10月～12月	・産学官マッピングイベントに出展しSICE会員のシニアズビルによる連絡構成と特典周知による賛助会員増に努める。
10月～12月	・学生委員増加対策 ・優秀学生賞の募集・表彰 ・AC2017開催支援 ・SICE及び関係学会の北陸地域会員への論文投稿呼びかけ	10月～12月	・SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集 ・優秀論文発表賞の審査・表彰 ・SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰 ・AC2017の開催を支援

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

55 関西支部

杉本支部長

組織名：関西支部		補 足 説 明	
他	2. 当年度予算と実績の比較検討 ① 支部会議に対し経費削減に努力する。また、常時、予算執行状況を検討する。 ② 支部会議で収支決算報告に平成 29 年度予算書と平成 28 年度収支決算書を記載し、報告する。		
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
・新田委員による運営委員会の実施	・運営委員会の実施	・運営委員会の実施	・運営委員会の実施
① 支部会議に対し経費削減に努力する。また、常時、予算執行状況を検証する。		② 支部会議で収支決算報告に平成 29 年度予算書と平成 28 年度収支決算書を記載し、報告する。	

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：関西支部		補 足 説 明	
他	1. 支部運営委員会メンバーの検討 ① 庶務幹事 3 人体制の役割の整理と充実 ② 新田委員候補の推薦時期前に人員の調整の必要性を検討し、必要があると判断されれば人員の増減を実施する ③ 特定の大学、企業に偏らない次期運営委員の選定		
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
・新田委員による運営委員会の実施	・運営委員会の実施	・運営委員会の実施	・運営委員会の実施
① 庶務幹事 3 人体制の役割の整理と充実	② 人員配置の検討 ③ 次期運営委員選定		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017年) 161220 版

組織名：関西支部		補 足 説 明	
他	3. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会若手研究発表会の開催、運営（シンポジウム委員会） ① 従来より開催されている計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会若手研究発表会は、若手研究者の発達の場として好評である。今後とも同様に開催し、関連分野の若手研究者に研究発表、交流の場を提供する。		
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
1 月 13 日(金) に大阪大学 雑司会館にて 2017 年度の 研究発表会を開催	2018 年度の研究発表会の 日程及び会場を決定し準備 を開始		
			特別講演の企画 研究発表会のプログラム決定 研究発表会論文集の作成

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：関西支部			
補 足 説 明	<p>4. 関西分野における研究者・技術者の知識・技術の向上に貢献するために、満足度の高い講習会を企画し、多くの参加者を集めてその効果を高める(講習会委員会)</p> <p>① システム制御情報学会との事業・実施運営分担について協議</p> <p>② 参加者獲得のための効果的広報について検討</p>		
他			
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
		・ チュートリアル講習開催	
	システム制御情報学会との共催であることを意識し、低負荷で有効な事業・実施運営分担の協議・検討		
	2016 年度に有効であったと思われる広報方法について確認		
	支部甲、支部Ⅲ、計測自動制御学会制御部門ⅢP など、効果的媒体への広報の実施		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：関西支部			
補 足 説 明	<p>5. 関西圏をターゲットとした見学会の企画、運営(見学会委員会)</p> <p>① 見学会の企画、運営</p>		
他			
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
			① 見学会の精算 来年度に向けた見学会候補の検討
	① 見学会実施 (例年 9、10 月頃)		
	① 見学会の決定 参加者の募集(学会誌への掲載)		
	① 前年度の参加者意見を反映させた見学会の検討		

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

組織名：関西支部			
補 足 説 明	<p>6. 支部長賞の募集、選考、受賞 関西支部 支部長賞の募集要項の決定、募集の実行、選考、受賞を行う。 募集や選考などで問題がなかったかどうかを検討し、必要に応じて各プロセスを改善する。</p>		
他			
1 月～3 月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月
	前年度の応募状況や応募時の問題点・改善すべき点を検討	募集要項の検討 審査方法の検討 応募用の書式等の準備	募集案内の Web 掲載・募集のⅢによる広報受付 応募の整理、応募要件の確認 選考委員会を組織
			選考委員会開催 受賞者の決定 授賞式 これらの日程は翌年にかかる

SICE 中期事業計画：単年度計画 (2017 年) 161220 版

56 中国支部

辻支部長

57 四国支部

久保支部長

組織名：中国支部 組-新-② 組-定-② 組-新-③ サ-定-⑤ プ-定-③	① 運営委員会の在り方の見直し ② 支部主催講演会に関する見直し ③ 当年度予算と実績の比較検討 ④ 支部主催行事の見直し・強化 ⑤ 学術講演会の予算計画方針の見直し ⑥ チュートリアル講演会の開催時期見直し	7 月～9 月 1. 第 2 回運営委員会(臨時) 9 月上旬：必要に応じメール会議 2. 学術講演会 11 月下旬：鳥取大学にて開催 3. チュートリアル講演会	10 月～12 月 1. 第 3 回運営委員会 11 月下旬：鳥取大学にて開催
	1 月～3 月 1. 第 1 回運営委員会 1 月中旬：広島大学にて開催 2. 支部会議(総会) 1 月中旬：広島大学にて開催 3. 特別講演会開催 1 月中旬：広島大学にて開催	4 月～6 月 1. 拡大運営委員会 5 月中旬：鳥取大学にて開催	7 月～9 月 1. 第 2 回支部学術講演会実行委員会 5 月中旬、メール会議 2. 第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 5 月中旬に開催

組織名：四国支部 組-新-③：財務連合化・効率化 サ-定-⑤：学術講演会事業の継続 プ-定-③：賛助会員への協賛	組-新-③：支部会議での予算案と実績を対比し、改善を図る。 サ-定-⑤：支部学術講演会を継続実施することで、中長期的社会ニーズに応える活動を展開する。 プ-定-③：賛助会員等の開催するセミナー、大会に対して協賛し、賛助会員への優待価値を示す。	7 月～9 月 1. 第 2 回支部学術講演会実行委員会 9 月中、メール会議 2. 第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 8 月中、メール会議 3. 電気関係学会四国支部連合大会 (SICE 四国支部共催) 9 月中に開催	10 月～12 月 1. 支部学術講演会 11 月中、香川大学にて開催 2. 第 2 回支部運営委員会 11 月中、香川大学にて開催 3. 第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 11 月中旬に開催 4. SMART2017 大会 協賛金を支給
	1 月～3 月 1. 支部会議 1 月中、徳島大学にて開催 2. 第 1 回支部運営委員会 1 月中、徳島大学にて開催	4 月～6 月 1. 第 1 回支部学術講演会実行委員会 5 月中、メール会議 2. 第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 5 月中旬に開催	7 月～9 月 1. 第 2 回支部学術講演会実行委員会 9 月中、メール会議 2. 第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 8 月中、メール会議 3. 電気関係学会四国支部連合大会 (SICE 四国支部共催) 9 月中に開催

58 九州支部

金城支部長

